

# 屋久島の 魅力に迫る！ その27

## — 屋久杉の輪切り —



この輪切り、直径2150mm 厚み200mmと とにかくデカイです。屋久杉伐採禁止の時代ですから、今後、絶対に入手できないものでもあり、当社の「お宝」でもあります。

樹齢は年輪を数えたところ972年でした。ただし、写真のように周りの白太（辺材）部分は完全に腐って消失しており、残っているのは赤身（芯材）部分だけになっています。本来有ったはずの白太部分は、直径2m以上の巨樹の枝葉まで養分補給することから、約200mm程度は付いていたものと推定されます。樹齢では150～200年が追加されます。また、白太が完全消失していることから伐採されて後、数百年（200～300年）経った、江戸時代の「土埋木」である可能性が最も高いと考えられます。したがって  $972年 + 150 \sim 200年 + 200 \sim 300年 = 1322 \sim 1472年$  つまり、今から1300～1500年前（西暦500年～700年頃）に種から芽が出て育ち始めたのだと考えています。この時代を「飛鳥時代」といいます。「聖徳太子」が活躍していた時期にあたります。「冠位十二階の制定（603年）」をはじめ、「憲法17条」を604年につくり、世界最古の木造建築・法隆寺も建立しました（607年）。日本という国が、国としての礎をつくり始めた頃にあたります。

国の歴史と共に育った屋久杉。この「歴史的天然遺産」は、岡崎製材本社ウラの「リビングスタイルHow's」の店舗内に展示してあります。是非ご覧ください。



NATURE DESIGN

岡崎製材株式会社

代表取締役 八田欣也